

# 乙訓平和委員会ニュース

発行年日2023年9月15日 No.458 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男  
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

## 日本でのストライキは再び到来するのか？ そごう西武労組がストライキ決行に注目！

8月31日に「そごう・西武」の西武池袋本店で、労働組合が24時間の全面ストライキを決行しました。大手百貨店でのストライキは、阪神百貨店で1962年に実力行使があって以来のことと、マスコミが大きく報道しました。

このストライキは、そごう西武労組が加盟している連合傘下の上部組織「UA ゼンセン」の指導によるものではなく、単組の決断によるものでした。ストライキは世間の注目を集めただけでなく、多くの労働者や連合・全労連などの組織の違いを越えて、労働組合からの激励・声援が寄せられています。労組の記者会見の席では、同業他社の百貨店の労組委員長数人も同席しているのが、TVニュースでも流されていました。

### 注目されるストライキの理由

今回のストライキが社会の注目を集めたのは、日本ではいまや死語化している「ストライキ」が、春闘などとは関係なく、それも有名大手百貨店で実施されたことにあります。しかもストライキの目的が、賃金要求ではなく働く職場が売られて経営者が交代し、従業員の雇用がどうなるのか全く分からないということによるものであったことです。

ストライキは、70年代までは春の風物詩の感がありました。しかし、いまやほとんど報道されることはありません。筆者も民間企業労組役

していました。これらは賃金要求が中心で、雇用問題や労働安全衛生、或いは社会的政治的要求でのストライキは、スト権を確立することはあっても、殆ど実行に至りませんでした。

その経験からすると、職場が身売りされて雇用も定かでないという、賃金交渉とは質の違う次元でのストライキは、特筆されることです。

今回、労働組合は経営者との交渉をしていたものの、経営者に当事者能力が無いに等しい状況の中で、まともな交渉とはならないため、労組がストライキ設定を背景にして交渉を求めています。その時点で経営側は、初めて当事者能力のある者が出席しての交渉をしたと報道されています。

社会の応援もあつてのスト決行でしたが、売却が進んだ今、新しい経営者との間で、労組の要求が通るように願うものです。

### 憲法第28条で「団体行動権」を明記

労働者と資本家は対等ではありません。双方が対等な関係で交渉できるよう、ストライキが権利として認められています。先人の闘いの結果、日本では憲法第28条で保障されています。

「勤労者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動をする権利は、これを保障する。」

ストライキは「団体行動をする権利」として明記されています。(文責:米重節男)(2面に別記事)

## 「どん底に落ちた時に聴く曲」

ブラームスの「弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 作品18 第2楽章」を聴くと、私はいつも心が震える。本当に心が揺さぶられる思いがします。

この曲を初めて聴いたのは大学時。ミニシアター系の映画館でのフランス映画の中でした。映画の内容よりも、あまりにもかかっていたこの曲に、大袈裟ですがよろっとなるくらい衝撃を受けたので、出る時に映画館長に聞きました。

「先ほどの映画で、かかっていた曲は何ですか？」

ブラームスの・・・という曲だと館長に教えていただきました。

すぐにショップに行ってそのCDを買いました。(今でもそのCDは大事に持っていて、時々取り出してきて聴いています)

先日、私が習っている先生に、このブラームスの曲になぜ私が惹かれるのかを聞いてみることにしました。先生は丁寧に答えてくれました。

音楽への人の好みは大きく4つに分かれると。

- ①明るい曲、 ②うるさい曲、
- ③クラシカルな(伝統のある)曲
- ④エモーショナル(エモ)な曲

私は、④のエモーショナルな曲を好む傾向があるのではないかと話されました。

確かに、②③はそうでもないですが、①の明るい曲にも惹かれますが、たいがいこのエモな(感情を揺さぶられる)曲を聴きます。

その点でも、ブラームスのこの曲は、感情を揺さぶられることに限りがありません。

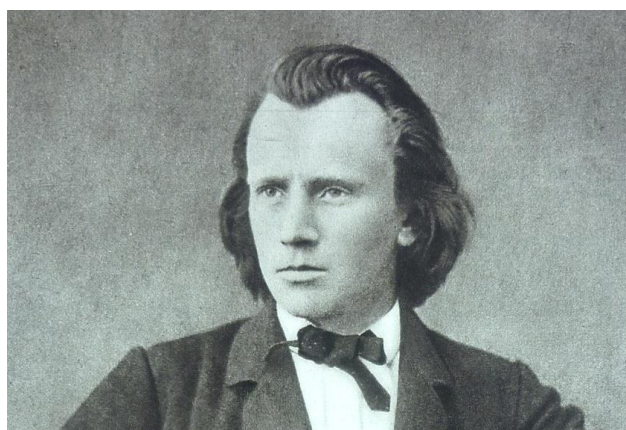
最後に、どこかで聞いたことがあるのですが、ブラームスのこの曲はどんな時に聴くのがいいのか?と。皆さんはどう思われますか? 実はこの曲は、人が「どん底に落ちて、もがきながら這い上がって行く時のきっかけとして良いのだ」と。まあ簡単に言えば、エモイけれど這い上がれるくらいに元気が出る曲なのだと。ぜひみなさん、一度視聴をしてみてください。

(23.09.11)

### 参考

ブラームス「弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 作品18 第2楽章」

<https://youtu.be/bY7delHWxys> (11分38秒から20分39秒まで)



若い頃のブラームス (Johannes BRAHMS)

(写真はONTOMO 作曲家辞典より転載)

19世紀ドイツの作曲家。1833年~1897年。バッハ、ベートーベンとともに、ドイツ音楽の3大Bと呼ばれる。交響曲第1番、ハンガリー舞曲などが良く知られている。弦楽6重奏曲第1番は1860年に作曲。